

式 辞

空が高く澄みわたり、清々しさを感じる日々が増える季節となりました。このよき日に、群馬県立高崎東高等学校の創立四十周年の記念式典を挙げていただけますことは、本校の関係者一同にとって、誠に大きな喜びであります。御多用の中、御臨席を賜りました歴代の本校校長先生、同じく歴代のPTA会長様や学校評議員の皆様をはじめとする御来賓の方々に、心より厚く御礼申し上げます。また本日は、四十周年記念事業実行委員を務められている同窓生を始めとする同窓会の皆様にもお集まりいただきました。皆様の中には、久々に訪れた本校で、樹木が大きく成長している様子や教室棟の改修された様子を御覧になり、過ぎた年月の長さに感慨を深めておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。十代後半という最も多感な時期において、友と競った日々や、笑いあった

しゅんじゅうみとせ

日々など、その他様々な感情を伴う思い出の全てが、ここ井野川のほとりの 春 秋 三年に込められ、そしてそれらを受け継ぎ、さらに共感できる今現在の生徒達がここに集結しています。現生徒達が受け継ぐこの校風、そして文化を担わんとする各自の誇りは、創立時と変わることなく受け継がれていくことでしょう。

四十年の歳月を経たことにより、この高崎東高等校もようやく「伝統」の文字を名乗ることが許されたように思います。「誠実、賢智、健康」の教育目標、スクールカラーの萌黄色は、多くの方々に認知していただけるようになりました。今の我々は、歴代の生徒とその保護者の方々が、先任の諸先生方が、そして地域の方々が築きあげてこられたこれらの伝統をしっかりと受け継ぎ、利

よくや

根の沃野に更にしっかりと根づかせ、そして遂には遠く天がける希望を生み出す存在となるでしょう。

わだち

しかし、伝統を継承するという行為は、単に先輩方の 轍 を踏むということではありません。先ほど申し上げた通り、伝統を継承ということは、遠く天がける未来を創造する希望を生み出すという行為でもあります。つまり新しい時代に対応するためには、知識や技能を継承しつつ、そこから生まれる問いを立て、この問いに誠実に答えていく力が必要です。そしてこの答えの先に、我々の

目指す未来が創造されるのです。

令和の時代は、生成 AI の進化や新技術の開発により、社会の構造そのものが大きく変化する時代です。人々の価値観や規範意識も多様化し、あふれる情報の中で、何を基準に、何を信頼して、自己の進むべき道を構築していくか、非常に難しい時代であると言えるでしょう。だからこそ、学びによって得られた、つまり伝統を継承しつつ自らが考える、問いを立てそれを解決していこうとする創造の力が必要になるのです。

伝統を継承する、先輩方の轍の通り進むことは、安心が得られるでしょう。しかしそこから更に一歩踏み出すことは勇気がいることです。そして我々には、その一歩を踏み出さなければいけない時が必ず来ます。その時、頼りになるのが伝統を継承してきたという自負、学んできたという自信、そしてそこから問いを立て自らが考えてきた、創造してきたという経験や実績です。私たちには可能性があります。希望があります。学びの道はこれからも続いていくし、その道を歩み続けていかなければなりません。私たちは創立四十周年記念式典の今日、継承と創造の学びの道を歩み続けることを改めて決意します。

これからも、多くの方面の方々からの御期待に沿えるよう、更なる飛躍を目指して伝統の継承と創造に努力を重ねていく所存です。高崎東高等学校の教育活動に倍日の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、創立四十周年記念式典の式辞といたします。

令和五年十月十三日

群馬県立高崎東高等学校

校長 関口 俊邦